

## 大阪府の相談まど口「ひだまり・MOE」のご案内



相談責任者：河崎 佳子（かわさき よしこ） 写真中央  
神戸大学 国際人間科学部 教授。専門は臨床心理学です。  
25年に亘り、「きこえ」についての心の支援に取り組んできました。  
お母さん、お父さんのお話をうかがいながら、  
赤ちゃんとの笑顔あふれるやりとりを共にはぐくんでいきたい、  
そう願って、私たちは、お待ちしております。

赤ちゃんの「きこえ」について知らされたお母さん、お父さんは、  
今、容易には ことばにできないくらい複雑な思いのなかにおられることと思います。

信じられない どうすればいいの？ 誰か教えて ……  
わたしが悪かったの？ とても笑顔になれない ……

どんな感情や考えも、どうかあなたの正直な気持ちとして認めてあげてください。  
たとえ、それがとても否定的な内容であったとしても——。  
赤ちゃんとの長いつきあい、「ありのまま」から始めてください。  
親だからといって、最初から、わが子にすてきな感情ばかり抱けるとは限りません。  
そういう人もいるし、そうでない人もいます。  
大切なのは、感情を責めないこと、感情に嘘をつかせないこと。  
どんなに否定的な思いであっても、認めてもらえれば、心のなかに居場所を得ます。  
居場所を得て落ち着けば、感情が勝手に暴れだすことはありません。

赤ちゃんとのコミュニケーションの始まりは、感情に彩られた「心の状態」のキャッチボール。  
お母さん・お父さんの気持ちが、身体の弛緩や表情をとおして、  
赤ちゃんの身体と心に伝わっていきます。  
ふんわりと暖かな心の状態は、赤ちゃんに  
「ママも、パパも、あなたも、だいじょうぶよ」というメッセージを伝えます。  
赤ちゃんの身体も柔らかくなって、満足げな微笑を返してくれることでしょう。  
これからの数ヶ月、赤ちゃんは驚くほどの能力を発揮してくれます。

チラチラ揺れる木漏れ日を、興味深く見つめます。  
大人の表情を真似て、小さな舌をちょっと不器用に突き出します。  
振ってもらった玩具に向かって、手や腕、お腹や足まで動きます。

日に日に成長していく赤ちゃんを観察できたら、発見の一つひとつを  
「すごいなあ！」と褒めてあげてください。  
それから、そんな発見のできたご自身を「たいしたものだ」と誇らしく感じてください。  
ママやパパのうれしい笑顔が、赤ちゃんに喜びを伝えます。  
「自分は人に喜びを与える存在なのだ」と、知ることから始まる人生はすてきです。  
伝えられる、受けとめてもらえる、分かち合える。  
そうした実感から、「人とかがわる能力」が発達していきます。  
ですから、さまざまなやりとりを、全身で楽しみたいですね。

ママのころ、パパのころ、赤ちゃんのころ、  
だいじょうぶ、だいじょうぶ、だいじょうぶ！

河崎 佳子